

外国人の目線で函館の国際化を考える

－函館国際化プロジェクト－

1. 背景・目的・概要

日本は人口減少が進む一方で、外国人人口が増えている。函館も例外ではなく、技能実習生を中心に外国人が増えている。本プロジェクトは日本人の視点だけではなく、外国人住民のニーズに対応した国際化について考え、日本人と外国人が共に生きる「多文化共生社会」の構築を目指している。プロジェクトは3年目に入り、1年目は、函館に住む外国人を対象にしたインタビュー調査を行い、2年目はインタビューの調査結果をもとに函館国際化のための最終報告書を作成した。また函館市長とのタウンミーティングに参加し、①外国人技能実習生と市民の交流会の開催②函館在住の外国人が小学校で自国の文化を語る「異文化理解講座」の開講――を市長に提言した。①は実習生が地域社会から孤立していること、②は自国の文化を発信したい外国人がいること、また子供のうちから外国人と接することが差別や偏見をなくすのに有効なことから、発案されたものである。3年目は市長への提言を実行することが最大の目的になり、市との共催でシュスタハコダテにおいて技能実習生と市民の交流会、北海道教育大学附属函館小学校で異文化理解講座を相次いで開催することができた。また市長に提言した事業ではないが、外国人にもっと日本文化を知ってもらうため、日本人と外国人が交流する着物着付け教室を開いた。

2. 年間スケジュール

2017年度後期（2017年10月～2月）	2018年度前期（2018年4月～7月）
10月：旧メンバーの先輩からの引継ぎ、複数の在住外国人を講師とした勉強会（12月まで）	4月：異文化理解講座の講師の決定、授業内容の打ち合わせ
11月：函館市役所、HIF（北海道国際交流センター）と技能実習生と市民の交流会に向けての会議、着物着付け教室の考案・企画づくり	5月：市役所、HIFと交流会に向けた打ち合わせ、異文化理解講座の講座内容の決定、着物着付け教室の考案・企画づくり
12月：橋本着付け教室に協力の打診。附属小学校での異文化理解講座についての打合せ	6月：外国人技能実習生と市民の交流会、附属小学校での異文化理解講座（2回）、日本人と外国人が交流する着物着付け教室の開催
1月：外国人技能実習生との関係づくり	

3. プロセスと成果

① 外国人技能実習生と市民の交流会

2017年度後期はまず技能実習生に実際にインタビューした先輩の話や、実習生を取材した北海道新聞記者の話の聞き、勉強した。その後、水産加工会社の実習生との関係づくりに力を入れ、一緒に函館市内を散策して交流を深めた。2018年度前期は交流会開催に向け、市役所やHIFと会議を開くとともに、交流会の企画内容を考えた。参加する水産加工会社も訪問し、打ち合わせをした。その一方で市民の参加を呼び掛けるためチラシやポスターを作成し、ラジオや新聞に記事を書いてもらうなど広報活動に力を入れた。

その甲斐があって、6月24日の交流会には、ベトナム人を中心とした技能実習生16人が参加、一般市民も高校生や大学生、主婦、学校教員、公務員、会社員など約40人が参加、大きな盛り上がりを見せた。交流会は

カフェスタイルで行い、ベトナムコーヒーや緑茶を飲みながら、参加者が自由にトークを展開した。アクティビティとしてベトナム語カルタ、日本の昔遊びや、うちわ作成などを取り入れ、幅広い年齢層が楽しめる内容になった。参加者からの感想として、「技能実習生にもっと函館について知ってほしい」「毎月交流会を開いてほしい」（一般市民）、「函館の人とたくさんお話をしたり、遊んだりできて良かった。参加して本当に良かったと思う」（実習生）などの声が上がった。①一般市民に実習生が函館の地場産業を支えていることを知ってもらう②実習生に市民との交流を深めてもらう——という2つの目標はおおむね達成されたと考えている。



写真：交流会の様子

②小学校での異文化理解講座

2017年度後期はインタビューした外国人を中心に講師にふさわしい人を探し、実際に会って協力を打診したほか、附属小に赴き、校長先生に企画内容を話すとともに、小学校の授業を見学するなど準備を進めた。2018年度前期に入ると、講座を担当する講師の選定を行い、ベトナム人留学生のホアン・ニャット・タンさんとフランス出身の語学教師、古地パメラさんに要請することを決めた。この後、小学校の講座担当の先生、講師と何度も打ち合わせを重ね、授業の内容を具体的に詰めていった。

講座は6月に2回にわたって開かれた。22日はタンさん、26日はパメラさんが講師を務めた。タンさんの授業では午前にはベトナムの生活文化を紹介する座学をした後、昼食を挟んで午後からは体育館でアクティビティを行った。どちらの講座も、児童たちが講座の内容に大変興味を示し、積極的に挙手をして発言した。講座後に児童に書いてもらったアンケートには、「最初は外国人が怖いと思っていたけれども、印象が変わった」、「もっとフランス語を学びたい」、「ベトナムに行きたいと思った」などの感想が出た。外国人に対する先入観が変わったり、外国への興味がさらに強まったりしたことが分かった。講師からも「自国の文化を話す活動を通して市民の一員になれた気持ちが出た」、「自国について話せて良かった」というような意見が出て、好評だった。



タンさんの異文化理解講座



パメラさんの講座

③日本人と外国人が交流する着物着付け教室

市長に提言したプロジェクト以外にも新規事業をやろうということになり、2017年度後期に何をするか検討した。インタビューした外国人の中に「日本の文化をもっと知りたい」との声があったため、着物の着付け教室

を開くことにした。橋本着付け教室の協力が得られることになり、橋本祐子先生との打ち合わせを開始した。2018年度後期には、会場の下見、橋本先生との最終打ち合わせ、チラシ作成・配布など広報活動に取り組んだ。

6月17日に函館市青年センターで開催した教室では、橋本先生が衣服や家紋に関する歴史や、正しい着付けの仕方を講義、日本人と外国人の参加者が一人で浴衣を着られるように何度も練習をした。また、着付け後の交流会では、和菓子や抹茶をいただきながら、各国の伝統衣装や文化についての会話が弾んだ。参加者からは、「浴衣の着方を知れて良かった」、「もっと日本文化を知りたくなった」などの声が上がった。

4. 総括と反省・今後の課題

外国人技能実習生と市民の交流会は予想を大きく上回る実習生と市民が参加、大きな盛り上がりを見せた。特にアクティビティとして用意したベトナム語カルタでは、実習生と市民がペアとなり、言語を媒介に相互理解を深める良い機会となり、大きな意味があったと感じている。反省点としては、当初実習生と日程の都合が合わず、一時交流会の参加人数が極端に少なくなるという恐れもあったので、今後、実習生とのパイプ作りに力を入れていく必要を感じた。課題としては、参加する実習生の受け入れ企業を増やし、もっと幅広く実習生に参加してもらえるようにプロジェクトを進めていく必要があると感じた。

異文化理解講座も小学校の児童、外国人講師の双方が喜んでくれたので、やりがいを感じた。今回は附属小での開催で、いわば試験実施。幅広い児童に直に外国の文化を知ってもらい、外国人と触れ合ってもらうためには、今後函館市内の公立小学校への普及が重要である。このため2018年7月12日に函館市の小学校校長会でプレゼンを行い、異文化理解講座の開講を呼び掛けたが、どのくらいの参加申し込みがあるかは不明。申し込みがない場合、公立小への個別の働きかけが必要になると思っている。

外国人と日本人が交流する着物着付け教室は参加した外国人は本校の留学生のみ。一般市民もほとんど参加せず、本校の学生が中心で、内輪のイベントになった感は否めない。広報活動が不十分だったと反省している。

5. 地域からの評価

技能実習生と市民の交流会は市役所など関係機関から、「普段あまり接する機会のない人々をつなげる良い場となった」、「実習生に函館のことを、市民に実習生のことを知ってもらえた」と好意的な感想をいただいた。一般市民と実習生の交流会は全国的にも珍しく、函館では初めての試み。これまで本校の学生と実習生の交流はあったが、一般市民との交流会はなかった。それだけに当初、我々も共催する市も不安だったが、実際に開いてみると、大盛況。実習生だけでなく、参加した受け入れ企業の幹部にも好評で、実りの多い事業になったといえる。初の試みだけに北海道新聞、函館新聞、読売新聞と3社も新聞社が取材に来て、大きく報道してくれた。北海道新聞の記者からは「外国人住民が増える中、社会的に意味のある試み」と望外の評価をいただいた。

一方、異文化理解講座では、連携先の附属小の先生方から、「講座内容が児童たちに興味のある内容で、自発的学習になっていた」との評価をいただいた。「テーマごとに分けて何度も授業を行うことができる」と今後の継続にも意欲的な意見をもらった。こちらも北海道新聞、函館新聞が取材に来て、取り上げてくれた。

今回の3つのプロジェクトは事前と当日の報道を合わせ、全部で9回も新聞に記事として掲載された。それだけ、ニュース価値があり、社会的な意義のあると取り組みであると感じている。無時に3つの事業を終えることができたのは函館市役所、HIF、附属小、橋本着付け教室をはじめとした関係者の皆様のご協力・ご支援によるところが大きく、この場を借りて感謝の意を示したい。

【メンバー一覧】

(学生) 高橋 佑 佐藤将太 近 由実 高橋苑香 佐々木美槻 村井佑美 澤田桃香 平木咲衣 若松 萌
金澤美寿紀 船見尚輝 佐々木俊介 四戸悠生奈 (担当教員) 藤巻秀樹